

英米文学入門Ⅰ

科目ナンバリング LIE-101
選択必修 2単位

大野 雅子

1. 授業の概要(ねらい)

この授業においては、イギリスの16世紀～20世紀前半の代表的な文学作品をいくつか取り上げ、テーマ、ストーリー、英語表現、英語の韻律に焦点を置いて講義を行う。英語を学ぶということは英文学を学ぶことである。英文学の知識なしに洗練された表現や感情の機微を的確に表す表現を身につけることはできない。授業は基本的に英語で行うので、日本語を介在せずに英語を理解する能力を増進する。授業の後半では扱った作品に関して英語で説明するプレゼンテーション形式の小テストを行う。または、授業で得た知識に関して英語でエッセイを書いてもらう。

2. 授業の到達目標

1. 英文学の知識を修得する。
2. 文学を批評的観点から読むことによって思考力を養う。
3. 英語の速読力を身につける。
4. 英詩の韻律の分析方法を修得する。
5. 英語のリスニング力を増強する。

3. 成績評価の方法および基準

授業内発表 40%、提出物40%、期末テスト20%

4. 教科書・参考文献

教科書

プリント配布

参考文献

河合祥一郎 新訳ロミオとジュリエット 角川文庫

高松雄一 ソネット集 岩波文庫

河合祥一郎 シェイクスピアの正体 新潮文庫

河合祥一郎 あらすじで読むシェイクスピア全作品 祥伝社新書

平井正穂 失楽園 上下 岩波文庫

平井正穂 イギリス名詩選 岩波文庫

5. 準備学修の内容

授業で扱う作品は日本語訳で全部読んでおくことが望ましい。授業に出席する前に、配布プリントの英語の抜粋を読んでおく必要がある。

6. その他履修上の注意事項

積極的に授業に参加し、積極的に英語を話そうとすることが重要である。15週間授業に参加したあとは英語力が如実に伸びていることを実感するであろう。

7. 授業内容

- 【第1回】 英文学史概観
- 【第2回】 ウィリアム・シェイクスピア
- 【第3回】 シェイクスピアの作品概観:喜劇と悲劇
- 【第4回】 シェイクスピアの作品概観:ロマンス劇と問題劇
- 【第5回】 シェイクスピア『ロミオとジュリエット』における「一目惚れ」、「愛と死」
- 【第6回】 シェイクスピア『ソネット集』から「君を夏の日にたえようか」
- 【第7回】 ジョン・ミルトン『失楽園』における「禁じられた木の実」
- 【第8回】 ジョン・ミルトン『失楽園』における「エデンの園」
- 【第9回】 ロバート・バーンズ「君は赤いバラ」
- 【第10回】 ウィリアム・ワーズワース「水仙」
- 【第11回】 S.T.コールリッジ「クブラ・カーン」
- 【第12回】 チャールズ・ラム「昔の懐かしい顔」
- 【第13回】 ロバート・ブラウニング「異国にて故郷を思う」
- 【第14回】 T.S.エリオット「荒地」
- 【第15回】 まとめと期末テスト